



## HIV感染患者における透析医療の推進

研究分担者 日ノ下文彦

国立研究開発法人国立国際医療研究センター 腎臓内科 診療科長

研究協力者 照屋 勝治

国立研究開発法人国立国際医療研究センター ACC病棟医長

須田 昭夫

須田クリニック 院長

多田 真奈美

国立研究開発法人国立国際医療研究センター 腎臓内科医師

片桐 大輔

国立研究開発法人国立国際医療研究センター 腎臓内科医師

別府 寛子

国立研究開発法人国立国際医療研究センター 腎臓内科レジデント

塩路 慎吾

国立研究開発法人国立国際医療研究センター 腎臓内科レジデント

### 研究要旨

HIV感染透析患者が漸増しているものの、大学病院やエイズ治療拠点病院、基幹病院以外の透析クリニック（サテライト）での受入れは進んでいない。そこで、日ノ下らは平成30年度（2018年度）から令和元年度の2年間、本研究班に属してHIV感染患者の受入れ促進を図る様々な活動を行うことになった。

まず、サテライトが患者を受入れる際に困らないよう、以前に作成された「HIV感染患者透析医療ガイドライン」初版を見直し、アップグレードでかつ実用的な「HIV感染患者透析医療ガイド改訂版 2019」を作成した。さらに、従来からよく行われてきた講演会、学会のランチョンセミナーや地域行政等による講習会、研究会における講演、さらには啓発用のビデオ制作に注力したほか、雑誌への寄稿も精力的に行い啓発活動に努めた。

また、受入れを推進する為、別な視点に立つユニークなシンポジウムの開催にも力を入れた。まず平成30年度には、血友病製剤によりHIVに感染した患者の対策に目を向けたシンポジウム「透析受入れ困難を考える-高齢化とHIV感染症, 血友病-」を企画した。また、令和元年度には、シンポジウム「HIV感染症の受入れを阻むものは何か？」を企画し、東京、名古屋、さいたまの3都市で開催した。これは、研究班が重点領域としている長期療養・介護、歯科、透析の3領域の研究班スタッフおよび専門家による講演とパネルディスカッションで、それぞれの領域固有の問題点と共通の問題点を浮き彫りにし、具体的な方策を議論するものである。これらのシンポジウムは、HIV感染症に携わる各領域の専門家が問題点を再認識し、HIV感染患者の受入れ促進の為の建設的かつ具体的な方法論を見出す契機になったと思われる。また、各領域間の情報共有、従来の診療体制の見直し、システム改善の重要性を強く認識する機会となり、HIV感染症の医療体制を変革するトリガーとして機能したのではないかと考えている。

## A. 研究の背景と目的

HIV感染症の治療は格段に進化しHIV感染患者の生命予後が改善したものの、一般人はもちろんのこと医療従事者でさえその多くは、1980年代のAIDSのイメージが定着したままとなっている。その結果、HIV感染症のコントロールがうまくいっても、他の合併症で受入れるべき一般の医療施設や療養施設での受入れが悪く、HIV感染患者が阻害されている現実がある。例えば、末期腎不全に至り無事に透析を開始しても気安く受入れる維持透析施設（サテライト）は極めて稀で、受入れ先を探すのに途方もない労力を要する。しかし、これは透析に限った問題ではなく、本研究班が重視している歯科診療や長期療養・介護においても同じ問題が続いている。

そこで、筆者らは透析患者の受入れという狭い領域に限らず、受入れ困難が喫緊の課題となっている上記3領域の専門家が集結して阻害要因を議論する場を設けることにした。それぞれ、専門性は異なるものの、受入れを阻む制度や社会の仕組み、医療環境、医療者の対応、偏見や差別、無知、拒否の心理については共通であると考えたのと、異なる領域間における率直な議論が適切なブレインストーミングの場となり、それぞれの領域の専門家が刺激を受けて現状の変革や活動方針の改善に結び付けられるはずだと考えたからである。

さらに、異なる領域同士の合同シンポジウムの企画として、血友病薬害被害者の救済医療実践の為に「透析受入れ困難を考える～高齢化とHIV感染症、血友病～」と題するシンポジウムも開催した。

シンポジウムの企画以外では、実用性の高い「HIV感染患者透析医療ガイド改訂版2019」を作成し、各都道府県におけるHIV感染透析患者の受入れをスムーズにする為のネットワーク構築に着手した。

また、2年の間に筆者らは様々な講演会や学会、研究会、講習会でHIV感染透析患者の受入れを促す講演を行ったほか、啓発資材（動画）の製作に協力し、雑誌への寄稿も精力的に行った。

## B. 研究方法

①「HIV感染症の受入れ阻害要因を考えるシンポジウム」と題するシンポジウムを東京、名古屋、さいたまで開催した。講演の演者は、長期療養・介護、歯科治療、透析の3分野において受入れ促進に携わっている専門家を選び、各シン

ポジウム最後にパネルディスカッション「HIV感染症の受入れを阻むものは何か？そしてその解決策は？」を実施した（詳細は図1、2、3参照）。

- ② 血友病薬害被害者の救済医療の実践の為、シンポジウム「透析受入れ困難を考える～高齢化とHIV感染症、血友病～」を開催した（図4参照）。
- ③ 「HIV感染患者透析医療ガイド改訂版2019」を作成し、全国の透析施設に配布した。
- ④ 「HIV透析ネットワーク」を各都道府県で構築する為の準備を進め、東京都では他府県のモデルとなるよう、いち早く東京HIV透析ネットワークプロジェクトを立ち上げ、ネットワーク作りに着手した。
- ⑤ HIV感染透析患者の受入れを促進する為の啓発的な講演を様々な講演会、学会、研究会、講習会等で行ったほか、啓発資材（動画）の製作にも協力した。
- ⑥ 医学雑誌や透析医療従事者向けの商業誌等にHIV感染透析患者の受入れにつながる内容の原著、総説や解説を数多く寄稿した。
- ⑦ 学術講演会「HIV感染症と再生医療～再生医療が切り開く医療の未来～」を企画・開催した。

### （倫理面への配慮）

本研究は、シンポジウム、講演会、雑誌投稿、動画制作などの活動が中心であり、直接、患者に影響を及ぼしたり被検者になってもらう検討ではない。また、各講演会などにおける発表も、患者が特定されるような個人情報やプライバシーを侵害する内容は含まれておらず、倫理的問題はない。

### シンポジウム：HIV 感染症の受入れを阻むものは何か？

謹啓

現在、わが国には約3万人の HIV 感染者がいると言われています。幸い、抗レトロウイルス療法の進化により HIV のコントロールができるようになり、HIV 感染症は予後が改善し慢性疾患になったがゆえに、乗り越えなければならない医療・介護上の課題が増えています。そこでこの度、受入れ困難が問題となっている領域の先生方にお集まりいただき、単刀直入にその阻害要因を議論して頂くことにしました。是非、HIV 感染症に関わっておられる医師や医療従事者、行政職の皆様、その他の関係者にお集まり頂き、一緒に考え、阻害要因のブレークスルーにつなげていきたいと存じますので、よろしくお願い致します。

敬白

令和元年9月吉日

世話人 国立国際医療研究センター 腎臓内科 日ノ下 文彦

◆日時 2019年11月16日(土) 午後2時00分～午後5時15分

◆プログラム:

- ・開会の辞 厚生労働省健康局結核感染症課エイズ対策推進室長 加藤 拓馬 先生  
「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」班 横幕 能行 研究班長
- ・講演 1「長期療養および介護領域における HIV 感染症受入れの阻害要因」(2:05-2:45 pm)  
司会: 千葉大学医学部附属病院地域医療連携部 葛田 衣重 先生  
演者: 名古屋医療センター相談支援センター 浅海 里帆 先生 他
- ・講演 2「歯科領域における全国ネットワーク作りと受入れの阻害要因」(2:45-3:25 pm)  
司会: 名古屋医療センター エイズ総合診療部長 横幕 能行 先生  
演者: 名古屋医療センター 歯科口腔外科部長 宇佐美 雄司 先生
- ・休憩
- ・講演 3「北海道 HIV 透析ネットワーク作りとネットワーク成功の秘訣」(3:35-4:05 pm)  
司会: 国立国際医療研究センター 腎臓内科 診療科長 日ノ下 文彦  
演者: 北海道大学病院血液内科 診療准教授 遠藤 知之 先生
- ・講演 4「全国的な HIV 透析ネットワークの展開と受入れの阻害要因」(4:05-4:20 pm)  
司会: 武蔵野赤十字病院 腎臓内科 副院長 安藤 亮一 先生  
演者: 国立国際医療研究センター 腎臓内科 診療科長 日ノ下 文彦
- ・パネルディスカッション「HIV 感染症の受入れを阻むものは何か？そしてその解決策は？」(4:20-5:10 pm) 司会: 日ノ下 文彦  
パネリスト: 加藤 拓馬 先生、横幕 能行 先生、葛田 衣重 先生、浅海 里帆 先生、宇佐美 雄司 先生、遠藤 知之 先生、安藤 亮一 先生、さいたまつきの森クリニック 東原 怜 先生、澤歯科医院 澤 悦夫 先生、国立国際医療研究センター病院 AGC 池田 和子 先生、国立病院機構東埼玉病院 武藤 陽子 先生、医心館 運営本部地域連携部 八島 美奈子 先生
- ・閉会の辞 東京都透析協会 会長 安藤 亮一 先生 (5:10 pm)
- ◆場所 東京コンベンションホール 京橋 中会議室 II-A・B (東京スクエアガーデン 5 階)
- ◆受付 ご来場の皆様には会場前でご記帳をお願いします。参加費は無料です。
- ◆問合せ先 国立国際医療研究センター 腎臓内科の秘書 豊田もしくは日ノ下まで  
TEL 03-3202-7181(代) E-mail: ctoyota@hosp.ncmg.go.jp  
主催: 厚生労働行政推進調査事業「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班」

図1

### シンポジウム：HIV 感染症の受入れを阻むものは何か？

謹啓

現在、わが国には約3万人の HIV 感染者がいると言われています。幸い、抗レトロウイルス療法の進化により HIV のコントロールができるようになり、HIV 感染症は予後が改善し慢性疾患になったがゆえに、乗り越えなければならない医療・介護上の課題が増えています。そこでこの度、受入れ困難が問題となっている領域の先生方にお集まりいただき、単刀直入にその阻害要因を議論して頂くことにしました。是非、HIV 感染症に関わっておられる医師や医療従事者、行政職の皆様、その他の関係者にお集まり頂き、一緒に考え、阻害要因のブレークスルーにつなげていきたいと存じますので、よろしくお願い致します。

敬白

令和元年12月吉日

世話人 国立国際医療研究センター 腎臓内科 日ノ下 文彦

◆日時 2020年1月11日(土) 午後2時00分～午後5時15分

◆プログラム:

- ・開会の辞 「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」班 横幕 能行 研究班長
- ・講演 1「長期療養および介護領域における HIV 感染症受入れの阻害要因」(2:05-2:45 pm)  
司会: 千葉大学医学部附属病院地域医療連携部 葛田 衣重 先生  
演者: 国立病院機構東埼玉病院医療福祉相談室 武藤 陽子 先生
- ・講演 2「歯科領域における全国ネットワーク作りと受入れの阻害要因」(2:45-3:25 pm)  
司会: 名古屋医療センター エイズ総合診療部長 横幕 能行 先生  
演者: 名古屋医療センター 歯科口腔外科部長 宇佐美 雄司 先生
- ・休憩
- ・講演 3「北海道 HIV 透析ネットワーク作りとネットワーク成功の秘訣」(3:35-4:05 pm)  
司会: 国立国際医療研究センター 腎臓内科 診療科長 日ノ下 文彦  
演者: 北海道大学病院血液内科 診療准教授 遠藤 知之 先生
- ・講演 4「全国的な HIV 透析ネットワークの展開と受入れの阻害要因」(4:05-4:20 pm)  
司会: 国立病院機構東埼玉病院呼吸器内科部長 堀場 昌英 先生  
演者: 国立国際医療研究センター 腎臓内科 診療科長 日ノ下 文彦
- ・パネルディスカッション「HIV 感染症の受入れを阻むものは何か？そしてその解決策は？」(4:20-5:10 pm) 司会: 日ノ下 文彦  
パネリスト: 横幕 能行 先生、葛田 衣重 先生、武藤 陽子 先生、宇佐美 雄司 先生、遠藤 知之 先生、堀場 昌英 先生、つきの森クリニック 東原 怜 先生、南谷谷クリニック 松村 治 先生、友愛日進クリニック 中里 優一 先生、鈴木歯科クリニック 鈴木治仁 先生、国立国際医療研究センター病院 AGC 池田 和子 先生
- ・閉会の辞 NHO 東埼玉病院呼吸器内科部長 堀場 昌英 先生 (5:10 pm)
- ◆場所 TKP ガーデンシティ PREMIUM 大宮 2 階大ホール【会場併設の駐車場は限られているので、車でお越しの方は近隣のコインパーキングをご利用ください】
- ◆受付 ご来場の皆様には会場前でご記帳をお願いします。参加費は無料です。
- ◆問合せ先 国立国際医療研究センター 腎臓内科の秘書 豊田もしくは日ノ下まで  
TEL 03-3202-7181(代) E-mail: ctoyota@hosp.ncmg.go.jp  
主催: 厚生労働行政推進調査事業「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班」

図3

### シンポジウム：HIV 感染症の受入れを阻むものは何か？

謹啓

現在、わが国には約3万人の HIV 感染者がいると言われています。幸い、抗レトロウイルス療法の進化により HIV のコントロールができるようになり、HIV 感染症は予後が改善し慢性疾患になったがゆえに、乗り越えなければならない医療・介護上の課題が増えています。そこでこの度、受入れ困難が問題となっている領域の先生方にお集まりいただき、単刀直入にその阻害要因を議論して頂くことにしました。是非、HIV 感染症に関わっておられる医師や医療従事者、行政職の皆様、その他の関係者にお集まり頂き、一緒に考え、阻害要因のブレークスルーにつなげていきたいと存じますので、よろしくお願い致します。

敬白

令和元年11月吉日

世話人 国立国際医療研究センター 腎臓内科 日ノ下 文彦

◆日時 2019年12月21日(土) 午後2時00分～午後5時15分

◆プログラム:

- ・開会の辞 「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究」班 横幕 能行 研究班長
- ・講演 1「長期療養および介護領域における HIV 感染症受入れの阻害要因」(2:05-2:45 pm)  
司会: 千葉大学医学部附属病院地域医療連携部 葛田 衣重 先生  
演者: 名古屋医療センター相談支援センター 浅海 里帆 先生  
医心館 運営本部地域連携部 八島 美奈子 先生
- ・講演 2「歯科領域における全国ネットワーク作りと受入れの阻害要因」(2:45-3:25 pm)  
司会: 名古屋医療センター エイズ総合診療部長 横幕 能行 先生  
演者: 名古屋医療センター 歯科口腔外科部長 宇佐美 雄司 先生
- ・休憩
- ・講演 3「HIV 感染透析患者の受入れ経験」(3:40-4:00 pm)  
司会: 藤田医科大学腎臓内科学教授 福熊 大城 先生  
演者: 増子記念病院腎臓内科主任部長 安田 香 先生
- ・講演 4「全国的な HIV 透析ネットワークの展開と受入れの阻害要因」(4:00-4:20 pm)  
司会: 藤田医科大学腎臓内科学教授 福熊 大城 先生  
演者: 国立国際医療研究センター 腎臓内科 診療科長 日ノ下 文彦
- ・パネルディスカッション「HIV 感染症の受入れを阻むものは何か？そしてその解決策は？」(4:20-5:10 pm) 司会: 日ノ下 文彦  
パネリスト: 横幕 能行 先生、葛田 衣重 先生、浅海 里帆 先生、宇佐美 雄司 先生、福熊 大城 先生、安田 香 先生、愛知県保健医療部健康政策課 大参 秀徳 課長補佐 様、新児クリニック 二村 弘一 先生、えびた歯科 江村 亮治 先生、名古屋医療センター HIV コーディネーター 三輪 紀子 先生、国立国際医療研究センター病院 AGC 池田 和子 先生
- ・閉会の辞 愛知県透析協会 会長 福熊 大城 先生 (5:10 pm)
- ◆場所 JPTタワー名古屋 ホール&カンファレンス 3階ホール
- ◆受付 ご来場の皆様には会場前でご記帳をお願いします。参加費は無料です。
- ◆問合せ先 国立国際医療研究センター 腎臓内科の秘書 豊田もしくは日ノ下まで  
TEL 03-3202-7181(代) E-mail: ctoyota@hosp.ncmg.go.jp  
主催: 厚生労働行政推進調査事業「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班」

図2

### シンポジウム：透析受入れ困難を考える — 超高齢化と HIV 感染症、血友病 —

謹啓

現在、わが国で透析を受けている患者さんは 30 数万人に上ります。いまだに維持透析患者数は増えていますが、超高齢者や一部の感染症患者に対して受入れ環境が十分に整っていないとは言えません。そこで、受入れ困難の原因となっている超高齢化、HIV 感染症、血友病を取り上げ、課題と対策について検討してみたいと致しました。透析受入れの問題について関心の高い医師、研究者、医療従事者や関係者の皆様にお集まり頂き、一緒に考え、阻害要因のブレークスルーにつなげていきたいと存じますので、大勢の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

敬白

平成 30年9月吉日

世話人 国立国際医療研究センター 腎臓内科 日ノ下 文彦

◆日時 2018年12月8日(土) 午後1時30分～午後4時40分

◆プログラム:

- ・開会の辞 厚生労働省健康局結核感染症課エイズ対策推進室 原澤 明史 室長補佐 (1:30 pm)
- ・講演 1「問題の多い高齢透析患者の受け入れについて — 人生最終段階の医療も含めて —」(1:35-2:15 pm)  
司会: 国立国際医療研究センター 腎臓内科 診療科長 日ノ下 文彦  
演者: 長崎病院内 病院長 原田 孝司 先生
- ・講演 2「血友病と HIV 感染症、そして CKD と出血傾向患者の人工透析について」(2:15-2:55 pm)  
司会: 名古屋医療センター エイズ総合診療部長 横幕 能行 先生  
演者: 東京医科大学 臨床検査医学分野 主任教授 福武 勝幸 先生
- ・休憩
- ・講演 3「HIV 感染症と透析療法」  
「透析治療をしている HIV 感染血友病患者の 1 例」(3:05-3:50 pm)  
司会: 静岡県立総合病院腎臓内科 副院長 森 典子 先生  
演者: 国立国際医療研究センター 腎臓内科 診療科長 日ノ下 文彦  
須田クリニック 理事長 須田 昭夫 先生
- ・パネルディスカッション「透析受入れ困難を考える！」(3:50-4:30 pm)  
司会: 日ノ下 文彦  
パネリスト: 横幕 能行 先生、福武 勝幸 先生、森 典子 先生、原田 孝司 先生、須田 昭夫 先生、鈴木 隆史 先生(荻窪病院 血液凝固科 部長)、照屋 勝治 先生(国立国際医療研究センター AGC 外来医長)
- ・閉会の辞 HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班長 横幕 能行 先生 (4:30 pm)
- ◆場所 御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター 2階 「テラスルーム」  
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6 TEL 03-6206-4855  
JR 御茶ノ水駅聖橋口から徒歩1分、地下鉄千代田線新御茶ノ水駅 B2 出口直結  
地下鉄丸の内線御茶ノ水駅から徒歩1分、都営地下鉄新宿線小川町駅から徒歩6分
- ◆受付 ご来場の皆様には会場前でご記帳をお願いします。参加費は無料です。
- ◆問合せ先 国立国際医療研究センター 腎臓内科の秘書 豊田もしくは日ノ下まで  
TEL 03-3202-7181(代) E-mail: ctoyota@hosp.ncmg.go.jp  
主催: 厚生労働行政推進調査事業「HIV 感染症の医療体制の整備に関する研究班」

図4

## C. 研究結果

### ① 「HIV 感染症の受入れ阻害要因を考えるシンポジウム」(東京、名古屋、さいたま)

3会場とも数十名が参加し、白熱した議論が展開された。特に、印象に残った議論についてまとめると、まず長期療養・介護の分野では、愛知県在住だったHIV感染患者が急性疾患を発症し、その後、長期療養期となり親族が住んでいる関東圏に移動させることになった症例の問題点を挙げて議論が進んだ。本例は愛知県から関東圏への移動ということで、必ずしも地域間の連携がうまくいかず手間がかかった。最終的には、某民間療養施設が受入れることで決着したが、HIV感染患者受入れに対して地域間で温度差があるように思われた。今後、受入れがスムーズにいかない地域においては医療体制の見直しを研究班全体で考えていく必要があるかもしれない。

歯科領域は各都道府県のネットワーク構築が比較的進んでいる領域だが、すべての都道府県でネットワークが構築されたわけではない。HIV感染患者における歯科受診のニーズは、透析患者や長期療養・介護の比ではないはずであり、これまで以上に窓口を広げないと、受入れ可能な歯科医院が対応しきれず破綻してしまうと思われる。さらに、大学の歯学部教育や卒後教育の現場では感染症対策の指導が進んでない場合もあるらしいので、今後は歯科教育機関において感染症に対する認識を高める努力も必要であろう。

透析については、「HIV感染患者透析医療ガイド改訂版2019」を研究班で作成したものの、歯科領域とは異なり、北海道を除く多くの都府県でネットワークは確立されておらず、その構築は今後の課題である。幸い、シンポジウムを開催した東京都や愛知県(名古屋)ではネットワーク構築に対し前向きな姿勢が認められたほか、シンポジウムで刺激を受けた埼玉県でもHIV透析ネットワーク構築の機運が高まるものと期待している。

「HIV感染症はある程度制圧された疾患であるから、どこの医療機関、どの透析施設でも無条件に受入れべきであり、一部の医療機関だけに絞ってネットワークリストを作るのは矛盾していないか」という意見も出たが、大半の医療機関、歯科診療施設、療養・介護施設がまだHIV感染患者を拒絶している以上、現状では受入れ可能な施設を増やしてネ

ットワークを構築していくのは現実的な方法である。もちろん、こうした活動を通じて、一般施設の理解や受入れが進み、10年後には無条件に各施設が受入れるようになるのが理想であろう。

### ② シンポジウム「透析受入れ困難を考える—高齢化とHIV感染症、血友病—」

首都圏において血友病の専門家とHIV感染症の専門家、透析医療に詳しい臨床医、実際にHIV感染透析患者を受入れている透析医らが一同に会して各領域の専門家が講演を行い、合同でパネルディスカッションを行って受入れの障壁に関する意見交換ができた。

### ③ 「HIV 感染患者透析医療ガイド改訂版2019」を作成し全国の透析施設に配布(別添資料参照)

2010年に日本透析医会が中心になって作成した「HIV感染患者透析医療ガイドライン」をベースにして、とても実用的でわかりやすい「HIV感染患者透析医療ガイド改訂版2019」を作成し(表1)、4,000以上に上る全国の透析施設に配布した。

表1 HIV感染患者透析医療ガイド改訂版作成委員

	名 前	所 属
委員長	日ノ下文彦	国立研究開発法人国立国際医療研究センター
顧問	原澤 朋史	厚生労働省エイズ対策室
	横幕 能之	(独) 国立病院機構名古屋医療センター (HIV感染症の医療体制の整備に関する研究班長)
委員	安藤 稔	慈誠会記念病院
	安藤 亮一	武蔵野赤十字病院
	薄井 園	東海中央病院
	菊地 勘	下落合クリニック
	栗原 怜	さいたまつきの森クリニック
	多田 真奈美	国立研究開発法人国立国際医療センター
	照屋 勝治	国立研究開発法人国立国際医療センター
	萩原 千鶴子	横須賀クリニック
	松金 隆夫	帝京短期大学
	山下 芳久	埼玉医科大学
竜崎 崇和	東京都済生会中央病院	

委員はアイウエオ順。敬称略。

#### ④ HIV透析ネットワーク

全国の都道府県でネットワークを作る為、まず日本透析医会理事長および理事会で承認を受けた後、日本透析医会が透析医会の各支部長にネットワーク構築に協力してもらえるかどうか打診した。2020年2月現在、過半数の都道府県が構築に同意しており、今後、構築に前向きな各支部会に対し研究班が協力する予定である。

東京都では、既に直接、東京都透析医会の承諾を得ることができたので、2020年1月、東京都透析医会の主催で「HIV透析ネットワークプロジェクト」（研究班共催）を立ち上げた。今後は、このプロジェクト委員と共同で東京のネットワーク構築を押し進め、他府県のモデルとなるよういち早く完成させる予定である。

#### ⑤ HIV感染透析患者の受入を促進する為の啓発的な講演活動と啓発資料（動画）製作 （以下、主なもののみ抜粋）

##### 1) 第63回日本透析医学会ランチョンセミナー3 (2018/7/29)

「HIV感染透析患者受け入れの実態」

（司会および演者：日ノ下）

「透析医療者は知っておきたい、透析医療施設におけるHIV陽性者との関わり方」

（演者：横幕）

##### 2) 厚生労働行政推進調査事業

「HIV感染症の医療体制の整備に関する研究班」・長野県透析研究会・鳥居薬品(株)共催 講演会「HIV感染症と血液透析－決して高くない受け入れのハードル－」(2019/1/26)

「HIV感染症と透析医療」(演者：日ノ下)

\* その他の演題あり（総合司会・進行：日ノ下）

##### 3) 平成30年度東京都医療従事者向け講習会

「身近な地域で透析医療を受けるために－HIV陽性者の療養支援－」(2019/2/14)

「HIV感染症とHIV陽性者の透析療法－HIV感染症はもう怖くない－」(演者：日ノ下)

##### 4) 国立国際医療研究センターACC救済医療室による「薬害HIV救済医療シンポジウム」

(2018/5/18)

「HIV感染症と透析療法」(演者：日ノ下)

##### 5) 令和元年度東京都医療従事者向け講習会「身近な地域で透析医療を受けるために－HIV陽性者の療養支援－」(2020/1/9)

「HIV感染症とHIV陽性者の透析療法－HIV感

染症はもう怖くない－」(演者：日ノ下)

「地域の医療機関の取組み－HIV感染者の維持透析－」(演者：須田)

##### 6) 東京都透析医会総会 講演会 (2020/1/18)

特別講演「HIV感染患者の透析と受入れ体制について」(演者：日ノ下)

##### 7) その他の講演（以下すべての演者：日ノ下）

・第9回東富士腎セミナー (2018/7/3)

・東京腎疾患フォーラム (2018/7/12)

・第3回城南RIONA SEMINAR (2018/9/6)

・透析合併症対策セミナー (2019/5/23)

##### 8) 第64回日本透析医学会学術総会で動画「地域の透析施設におけるHIV感染患者受け入れのために」展示 (MSD(株)制作)

・Part 1 HIV専門医の立場から

「今後の増加が予想されるHIV感染患者の透析～知っておきたいHIVの基礎知識と感染対策上の留意点～」(照屋が出演・解説)

・Part 2 透析専門医の立場から

「HIV感染症とHIV陽性者の透析療法～HIV感染症はもう怖くない～」

(日ノ下が出演・解説)

#### ⑥ HIV感染透析患者の受入れにつながる内容の投稿、寄稿

・日ノ下文彦, 秋葉隆. HIV感染患者における透析医療の推進に関する第2次調査. 透析会誌 52(1): 23-31, 2019

・日ノ下文彦. 【透析室の感染症へどう対応するか】HIV感染患者をサテライト施設で受け入れるには. 臨床透析 34(6): 605-10, 2018

・日ノ下文彦. 【透析医療と合併症 キュア&ケアガイドブック】感染症対策 (CQ 61) HIV感染透析患者への対応・対策はどのように行いますか? 臨床透析 34(7): 932-36, 2018

・日ノ下文彦. 【今、糸球体疾患を考える】二次性糸球体疾患 HIV関連腎症. 腎と透析 86(5): 611-14, 2019

・日ノ下文彦. 【全身性疾患と腎 update】(第6章) 感染症 HIV感染症・腎臓専門医の視点より. 腎と透析 86増刊: 416-19, 2019

・日ノ下文彦. 特集「これからの時代の透析医療における感染対策」. and You 3: 2-7, 2019

## ⑦ 学術講演会「HIV 感染症と再生医療 ～ 再生医療が切り開く医療の未来 ～」

1) 特別講演「iPS細胞を用いたHIV感染症研究」  
(2020/1/9) (演者：京都大学 iPS 細胞研究所増殖分化機構研究部門 金子新先生)

筆者らが透析医療従事者向けに説明する時、「HIV感染症はコントロールできる時代になった」と説明しているが、抗レトロウイルス療法を継続してもHIVの血中への出現が検出限界以下に減じるだけで完全に駆逐されたわけではなく、HIV感染患者に血液透析を続ける以上は、HIVフリーの状況を実現する（根治）に越したことはない。そういう意味で、HIV抗原特異的CD8陽性キラーT細胞に関する金子らの研究は理想的な治療の実現につながる可能性が高いもので、本研究班の活動に活力を与えてくれる内容であった。

### D. 考察

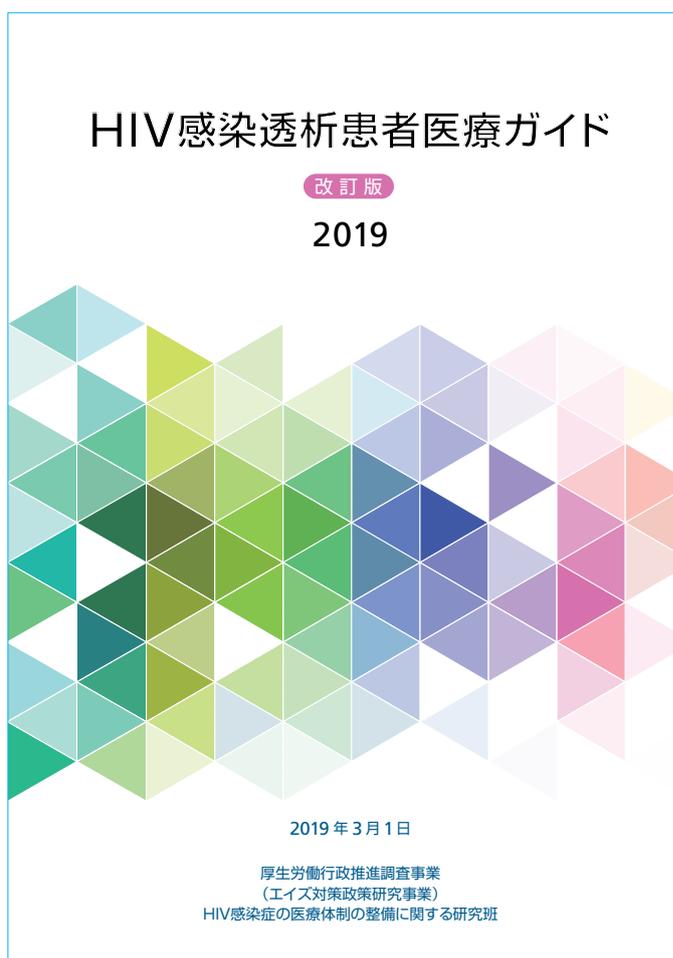
シンポジウム「HIV感染症の受入れ阻害要因を考える」も「透析受入れ困難を考える～高齢化とHIV感染症、血友病～」も一見接点の少ない異分野の専門家が登壇し異色のシンポジウムのように思える内容だが、数十名の聴講者（オーディエンス）に恵まれ成功裡に終わった。しかも、それぞれ新しい切り口から充実した議論を展開することができたので、HIV感染症やその医療、血友病や高齢化問題に関心があって集まったオーディエンスに対し、十分なインパクトを与えることができたと思自負している。そして、さらに重要なことは、登壇したHIV医療の専門家、従事者同士が互いに刺激を受け、HIV感染患者の受入れについて新たに具体的方策や改善すべき問題点に気づいた点がこれらのシンポジウム開催の最も大きな意義だったのではないかと考えている。

シンポジウム「HIV感染症の受入れ阻害要因を考える」では、分野の異なる他の領域の活動を知ることが受入れ促進の為の勉強になったと思われるし、シンポジウム「透析受入れ困難を考える～高齢化とHIV感染症、血友病～」では、血友病薬害被害者の救済医療の実践の為に何が必要か、透析における高齢化対策、透析受入れの問題を知ることによって参考になったことが多かったものと考えている。また、血友病薬害被害者の救済にとって今後益々深刻になりそうな透析の受入れ問題や高齢者問題を明らかにし対策を練っておくことはとても重要な課題なので、本シンポジウム開催の意義は大きい。さらに、首都圏

内だけでも血友病を扱う専門家と透析医療従事者、HIV感染対策の専門家が一堂に会して話し合えたのは、今後の連携強化に役立つはずである。

HIV感染患者をサテライトが受入れる場合、最も気になるのは具体的な透析方法や、HIV感染患者の取り扱い、急性疾患合併時の対応、水平感染の防止、職員のHIV曝露への対応などだが、こうした不安を払拭する最善の方法は、信頼できる指針が身近にあることである。そこで、本研究班が実用的でも分かり易い内容を盛り込んだ「HIV感染患者透析医療ガイド改訂版2019」を作成して各透析施設に配布した意義は大きい（別添資料参照）。今後は、HIV感染患者を透析導入して紹介する基幹病院スタッフもこのガイドブックに沿って、サテライト職員に説明しやすくなるはずである。

HIV透析患者受入れの障壁を少しでも軽減する為、HIV透析ネットワークの構築に乗り出したが、啓発の為の講演活動や広報活動、執筆活動なども継続した。前者はHIV感染透析患者を送り出す側の苦労を減らすことにつながるし、後者は受入れ側の心理的ハードルを下げるのに役立つ。こうした両面作戦を積極的に推し進めれば、数年後にはHIV感染症



に対する偏見や誤解が氷解し透析領域だけにとどまらず医療界全体の受入れがよくなるはずである。かつて何度も触れてきたが、筆者らはHIV感染透析患者受入れの為の啓発的な講演会がどれほどの効果を発揮するのか、講演会場でアンケート調査を行った（日ノ下文彦, 勝木俊, 照屋勝治, 他. HIV感染透析患者受入れの為の講演会の意義について－アンケートの結果報告. 透析会誌 51: 313-19, 2018）。その結果、約93%の回答者はHIV感染症やHIV感染患者の血液透析について「理解が深まった」と回答したほか、半数以上の回答者がHIV感染症の実態について「思い違いをしていた」と答え、HIV感染症の現状を誤解している事実が判明した。さらに、受入れに否定的だった回答者の28.3%が、講演後、受入れに肯定的となっており、講演活動やその他の広報活動は、関心が少ないか誤解をしている医師や医療従事者の啓発に役立つことは間違いないので、地味ではあるが引き続き継続すべき方策だと考えている。

## E. 結論

HIV感染透析患者の受入れを促進する為、様々なスタイルの活動を継続した。さらに、透析領域だけに限らず、血友病薬害被害者の救済医療の実践に少なからず寄与し、歯科領域、長期療養・介護領域とも連携しながらHIV感染患者の阻害要因を明らかにし、それぞれの分野で新たな改善策を練るきっかけを作ることができた。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

- 1) 日ノ下文彦, 勝木俊, 照屋勝治, 他. HIV感染透析患者受入れのための講演会の意義について－アンケートの結果報告. 透析会誌 51: 313-19, 2018
- 2) 日ノ下文彦, 秋葉隆. HIV感染患者における透析医療の推進に関する第2次調査. 透析会誌 52: 23-31, 2019

### 2. 学会発表

- 1) 塩路慎吾, 別府寛子, 坂本絵美, 三谷佑望, 多田真奈美, 日ノ下文彦. IgA腎症を発症したHIV感染症の2例. 第61回日本腎臓学会学術総会, 6月, 新潟, 2018

- 2) 多田真奈美, 赤木祐一郎, 高橋真由美, 他. HIV陽性血友病Aの患者に血液透析を導入した一例. 第63回日本透析医学会学術集会, 6月, 神戸, 2018
- 3) 多田真奈美, 塩路慎吾, 別府寛子, 他. 当院におけるHIV感染患者11例の血液透析導入について（続報）. 第64回日本透析医学会学術集会, 6月, 横浜, 2019

## H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

### 1. 特許取得

なし

### 2. 実用新案登録

なし

### 3. その他

なし